

取扱説明書

作業前に必ずお読み下さい



マホータイの情報が見られます

マホータイ MTPセット

マホータイとオリシールのセット

●配管の継手(段差) 部分の補修に

品番：MTP-205
MTP-309
MTP-415

●このような作業にお使い下さい

- ・水、排気などの配管破損やモレの修理に。
特に配管の継手(段差)部分の補修に。
(注)修理する管の呼径に合ったものをお使い下さい
(裏の表参照)
- ・鉄、塩化ビニール、FRP、プラスチック等、
幅広く使用できます。
(注)ポリエチレン、ポリプロピレン製の素材には使用
できません。

●耐熱温度／作業温度

・耐熱温度:50℃(オリシール) ・作業温度:0℃以上

●準備するもの

- ・バケツ等水が1ℓ位入る容器
- ・ウェス(雑巾)
- ・サビ落とし用ヤスリ(必要に応じて用意)
- ・新聞紙(必要に応じて用意)

使用条件

- 使用期限は、それぞれのパックに表示しています。
- 保管は高温多湿の場所を避け、また小さなお子さまの手の届かない所に保管して下さい。
- 当製品の使用によって発生した事故や破損については、当製品に欠陥がある場合を除き、一切の責任を負いかねます。また、商品の不良については、商品の交換にてご容赦願います。
- 誤った使用に対しては、一切の責任を負いかねます。
- 使用上ご不明な点がありましたら、下記宛ご連絡下さい。

品番	マホータイ	オリシール56g	手袋
MTP-205	MT-205	1ケ	2双
MTP-309	MT-309	1ケ	2双
MTP-415	MT-415	1ケ	2双

総発売元 株式会社 折原製作所
東京都荒川区西日暮里 1-3-3
TEL03-5604-0303 FAX03-5604-0304

安全のため、必ずお守り下さい

- マホータイ及びオリシール(2液混合式エポキシ樹脂)は、素手で触ったり、肌や目に直接触れないようにして下さい。作業の際は、付属の手袋を必ず着用して下さい。
【マホータイに浸み込ませた樹脂、或いはオリシールが皮膚に付着した場合、「かゆみ」や「肌荒れ」を起こすことがあります。また、付着した樹脂がいったん硬化すると、大変取りにくくなります】
- もし万が一直接触れた場合は、すぐアルコールで拭くか、石鹼で5分以上水洗いをして下さい。また、もし異常がある場合は、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
- オリシールは、2液が均一に混合されると硬化反応が始まり、硬化の過程で高温になり、ヤケドなどの危険があります。オリシールを管に塗る作業は手早く行い、オリシールが熱くなったら作業を止めて手から離して下さい。

裏へ

製品の取扱いについて

- マホータイは、巻き付ける段階まで開封しないで下さい。
(水が硬化剤の役をして、空気に触れただけでも湿気で硬化します)
- マホータイ及びオリシールは、一回の作業で全部使い切ってください。(一旦、硬化が始まると固まってしまいます)
- マホータイ及びオリシールの樹脂が付着した工具類は、作業後すぐに、アルコール又はアセトンで拭き取って下さい。

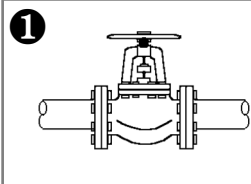
作業の前に

- 管内を流れる媒体が、耐熱温度(50℃)内にあるか確認して下さい。
- 作業を始める前に、配管のバルブを止め内圧をゼロにして下さい。(この製品は、水圧が掛かっている状態では作業ができません。バルブを止められない場合は、圧力が掛かったままでも修理ができる「マホータイ・オリステープ セット(別売)」を使って下さい)
- 管の腐食が激しい場合は、このMTPセットではなく、オリスチール(別売)とマホータイ(別売)をご用意下さい。
(オリスチールで継手部分の腐食を埋め、その上からマホータイを巻いて下さい。)

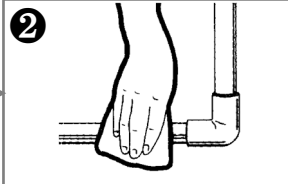
(参考) MTP セットの種類と適応パイプの呼径の関係(目安)

種類 \ 呼径	13	20	25	30	40	50	65	75	100	125	150
MTP-205			■	■	■	■	■				
MTP309						■	■	■			
MTP-415								■	■	■	

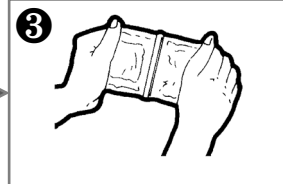
作業手順



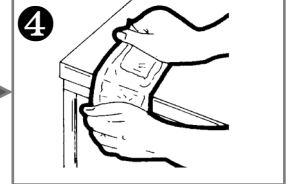
① 配管の元栓(バルブ)を開けて下さい。



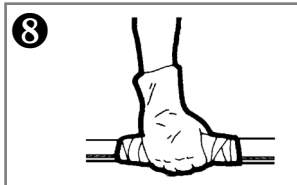
② 補修箇所を中心に、左右10cm幅の範囲で汚れを落とします。又、腐食が激しく管の表面がはげ落ちる様であれば、サビ落とし用ヤスリを用いてあらかじめ削り落とします。又、管の下へ新聞紙等をあらかじめ敷いて下さい。



③ まず、オリシールを取り出し、両端を持ち、強く引くと中間に止めてあるクリップピンが外れます。

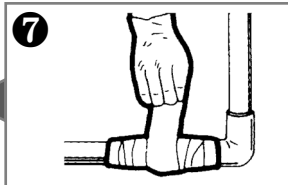


④ テーブルなどの角を利用して、パック内の樹脂2液を、均一の白濁色になるまで、よく混ぜ合わせます。(注)白濁後は、反応が始まります。すぐ次へ移して下さい。



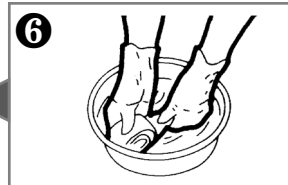
⑧ 巻き終わったら、手袋のままバケツの水を手付けて巻き方向に絞り込むように、表面を10回程なでして下さい。(内部の樹脂の一体化を促し、強度が増します)

・以上で作業は完了です。夏は約30分、冬は40分以上で乾燥です。表面の完全乾燥を確認したのちに、元栓(バルブ)を開いて下さい。

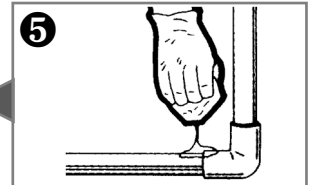


⑦ マホータイを水から取出し、補修箇所から1cm程ずつずらしながら、左右10cm程度の幅に巻かれる様にきつく巻きます。但し、破損箇所には6重層以上巻いて下さい。

(注)マホータイの繊維の網目が崩れるような場合は、強く引っ張り過ぎです。



⑥ アルミパックを開封し、中から「マホータイ」を取り出し、水に15秒(夏)~25秒(冬)浸して下さい。その時、水が「マホータイ」内部に均一に浸みる様に、軽くもみます。(この時から気泡がでます)



⑤ 付属の手袋を着用し、オリシールの片端をカッター等で切り、補修箇所につまぷり塗って下さい。(下へ垂れても塗り続けて下さい。)